

飯舘村第6次総合振興計画中間報告会

次 第

日時：令和2年2月19日（水）18:30～
場所：飯舘村交流センター

- 1 開 会
- 2 村長あいさつ
- 3 計画策定の進捗報告等
 - 1) キャッチフレーズ
 - 2) 全体構想
 - 3) 専門部会別重点事業
- 4 意見交換・質疑応答
- 5 その他
- 6 閉 会

1. キャッチフレーズ（案）

ものは引き算、こころは足し算の村づくり
～ちょっと住む 時々住む ずっと住む
みんないいかも いいたて村～

■メインテーマ「ものは引き算、こころは足し算の村づくり」

飯舘村は第5次総合振興計画で「までいライフ」という理念を掲げ、人・地域・家族の繋がり、自然や文化、そして人づくりを大切にする村づくりを進めてきました。第6次総合振興計画は、東日本大震災に伴う急激な少子高齢化による諸問題を踏まえ、「までいライフ」の考え方を基に、5次総を発展させた新しい形を目指して策定を進めております。村の現状に沿って様々なものを縮小しなければならない中、それを単に補う以上に人と人との絆や助け合い、精神的な豊かさを増やしていくという意味を込めてメインテーマを設定しました。

■サブテーマ「ちょっと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも いいたて村」

「村内居住者・村外居住者・元村民のみんなで協力して村づくりを行う必要がある」、「月に数日しか村で過ごせないのでは、どう思われているか不安」、「既に色々な住み方が混在しているからこそ、二地域居住などの新しい暮らし方を希望する移住者を受け入れていける」等の意見が専門部会や地域別懇談会で多く出されました。村に住みたくても住めない方や、色々な自治体に少しずつ住むという新しい暮らし方など、どのような場合でも楽しく安心して関われるような飯舘村を目指すという意味を込めてサブテーマを設定しました。

■キャッチフレーズ（案）の決定の経緯

第4次総合振興計画では計画策定の最後に、第5次総合振興計画では計画策定の最初にテーマを決めましたが、第6次総合振興計画は「最後にテーマを決めると各分野の方針がまとまらないのではないか」、「どんな村を目指したいか話し合わずに最初にテーマを決めることはできない」という意見の中、ある程度方向性が見えた段階で一度テーマを定めることといたしました。数多くの提案を参考に、令和元年12月から2カ月程度、各専門部会等でキャッチフレーズの検討を行い、最終的に事務局で数点に絞った中から、策定委員会で賛成意見があった2つの案を組み合わせ、キャッチフレーズ（案）といたしました。

2. 全体構想（案）

第6次総合振興計画は、計画全体のテーマ、各部のめざす姿、各部の重点プロジェクト

基 本 構 想 将来像・基本方針			基 本 計 画 めざす姿を実現するための方策
テーマ	各部のめざす姿	各部の基本方針	重点事業（検討中）
ものは引き算、 くちよつと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも いいたて村	＜健康・福祉・環境＞ 村の人が村らしくすごす	・健康管理をする上でも住民同士の交流が欠かせない ・郷土食を通じた健康づくり ・高齢者福祉、医療は人材確保を最優先 ・高齢者の役割づくり ・草刈りや除雪などを住民同士で助け合える仕組み作り	● いいたて動画プロジェクト ／村民1人ひとりの得意を発信、生きがいづくりにつながり、内容を次世代に引き継ぐ ● 豆ふたびプロジェクト ／5次総でも挙げていた「豆」を活用し、楽しく健康になれるイベントで交流を促す ● 住民同士の支え合い推進 ／草刈り、除雪、見守りなど、ちょっとした困りごとや個人の土地の整備等について、住民同士で支え合える仕組みを整備する ● 健康づくり ／メタボ率の改善等に取り組む ● 人材確保 ／福祉等の人材を確保し、サービス充実を図る
	＜産業・観光・移住＞ ～ギスギスからふわふわへ～ 飯館の価値を分かち合い あなたをやっこく迎える村を 目指します	・仕事について、「教わる&教える」関係の再構築 ・体験学習型の観光 ・関係人口を増やし、観光以上定住未満の関係を構築する ・多種多様な人をやわらかく歓迎する体制をつくる	● 観光情報発信 ／一人一人が観光大使となり、いいたてらしい「観光」情報を発信、共有する ● ニーズの共有 ／日用品で必要なものや、仕事でちょっと人手がほしい、など様々なニーズを共有しお互いの利便性を高め、道の駅等の品ぞろえ向上や、短時間の求人ができるなどの仕組みを整備する ● 農業の活性化 ／移住者や若手の農家を含め、農家同士の繋がりを強化し、農業の活性化に繋げる
	＜教育・文化＞ いいたてを 改めて 見つめ直す	・大人も子どもも自分のルーツやふるさとを改めて見つめ直すことが必要 ・死にがいのある場所を共同体でつくりあげる ・「いいたて」の文化を次へつないでいくための教育を大人も子どもも楽しめる形で行う	● 歴史・文化の発信 ／村の歴史や物語をまとめたマップ作りや動画配信サイトによる文化・技術の発信 ● いいたて食堂 ／ふるさとの食文化をつなぐため、学校教育での郷土食の実践学習や、伝統食を用いた新たな名物の開発等を行う ● 心の教育 ／ふるさと教育や心の教育を充実させる ● 読書の推進 ／「いい本、たまには、てにする」運動のような読書による学びを奨励する ● スポーツやアウトドアの推進 ／スポーツ公園やパークゴルフ場等の利活用促進、体力向上、自然や雪を生かしたアウトドアの推進
	＜防災・建設・行財政＞ 自助・共助で災害に強く 課題に立ち向かえる 強靱ないいたてをつくります	・地域の防災計画を作る ・5次総で作ったような地区別計画を作り、各行政区の将来を考える ・自家用車を持たない方の移動手段について整備を進める	● 地域防災計画 ／行政区ごと又は複数行政区で地域の防災計画やハザードマップを作成し、防災への意識付けや防災活動の強化を図ると共に、行政区同士の連携強化を目指す ● デマンドタクシー ／免許を返納した高齢者でも暮らしやすいよう、住民による自家用車を用いたデマンドタクシー等の仕組みを検討する ● 地区別計画の策定 ／5年間で行政区ごと又は複数行政区合同で今後の地域の在り方を考え、地区別計画を策定する。

※名称や内容等、今後変更となる可能性があります。

3. 分野別プロジェクト

① <健康・福祉・環境> 部会

<健康・福祉・環境>プロジェクト体系図

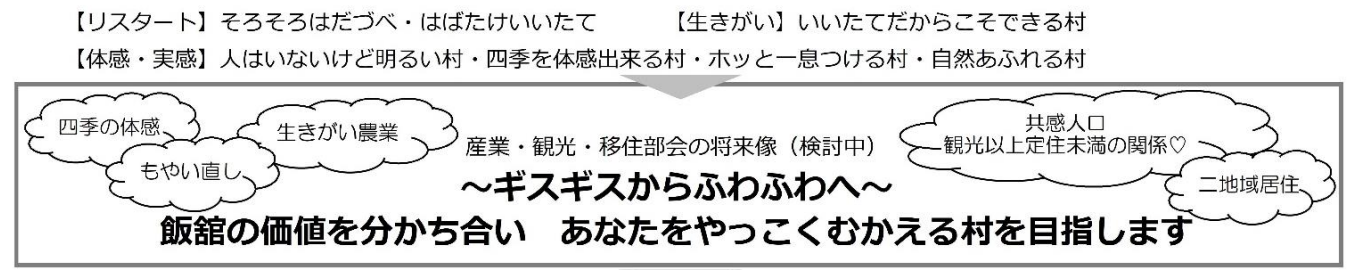


② <産業・観光・移住> 部会

今回は村民が主体となり進めていく取組みとして、5つの重点プロジェクトを提案します。これらはまず個々から始めていくことですが、最終的には地域の取組みに発展させ、多種多様な人をやわらかく歓迎する村を最終目標とします。なお、取組みの構築にあたっては、食や情報発信といった点で他の専門部会とも連携していきたいと考えています。

<産業・観光・移住定住>プロジェクト体系図

提案する村の将来像 (キーワード)



	プロジェクト名 (仮)	主体	取組み内容 (仮)
やっこくむかえる5つの重点プロジェクト	①楽しむ時間を共有しよう観光・定住 ウェルカムプロジェクト 【目標】 モデル地区の設定	村民	○各家庭で知人・友人を招待し、食を通じたハウスパーティーを開催。 それらを村で斡旋しているタブレットで公開または個人SNSで公開し輪を広げる。 ☞「食」「場」について健康部会・教育部会と連携
	②一人一人が観光大使になろう観光 観光情報発信プロジェクト 【目標】 1年後のInstagramハッシュタグ 500個	村民	○自家用車以外で巡れる交通手段を提供するため、自家用車に頼らずとも自転車でも巡れる村の隠れたスポットの紹介をタブレットや個人SNSで情報を発信する。 ☞「移動手段」について防災部会と連携 ○ハッシュタグ「#飯舘村の秘密のスポット」を付けて発信→クラウドファンディングを活用し、観光情報誌を作る。 ☞「発信方法」について健康部会と連携
	③ニーズを共有しよう定住 リクエストプロジェクト 【目標】 営業時間の拡大・定休日の削減	村民 事業者	○必要なものを村内で購入できるように事業者へリクエストし、日用品を村内で購入できるようにする。 ○要望にあった商品を提供する。住民の利便性を高めつつ売上向上など双方に得のある関係を構築する。
	④仕事の魅力を発信しよう定住 仕事の“共優”プロジェクト 【目標】 成立3件/年	村民 行政	○自営業者などが“ちょっと人手が欲しいとき”など、求人を出す。スタッフには飯舘の仕事の魅力に気付いてもらう。 ○掲示板の設置や専用ページ (ウーバーイーツのような) の開設などをサポート。
	⑤産業で新3Kを目指そう産業 (稼げる・カッコいい・革新的技術) コンサルティング導入プロジェクト 【目標】 2回/年	行政 村民	○事業者が村で安定して稼げる産業を継続していくため、農業や工業などの産業活動を行っている方や再開希望者を対象にした経営マネジメント能力や新技術などのコンサルティングを受けられる支援を行う。 ○コンサルティングを受けながら、さらに稼ぐ力を身につけ、持続可能な経営を行う。そして産業の魅力を発信し、再開希望者や新規参入者等へのサポートを行うなど産業の拡大・技術の継承・担い手の拡大に貢献する。

③ <教育・文化> 部会

<教育・文化>プロジェクト体系図

提案する村の将来像：**死にがいのある村**

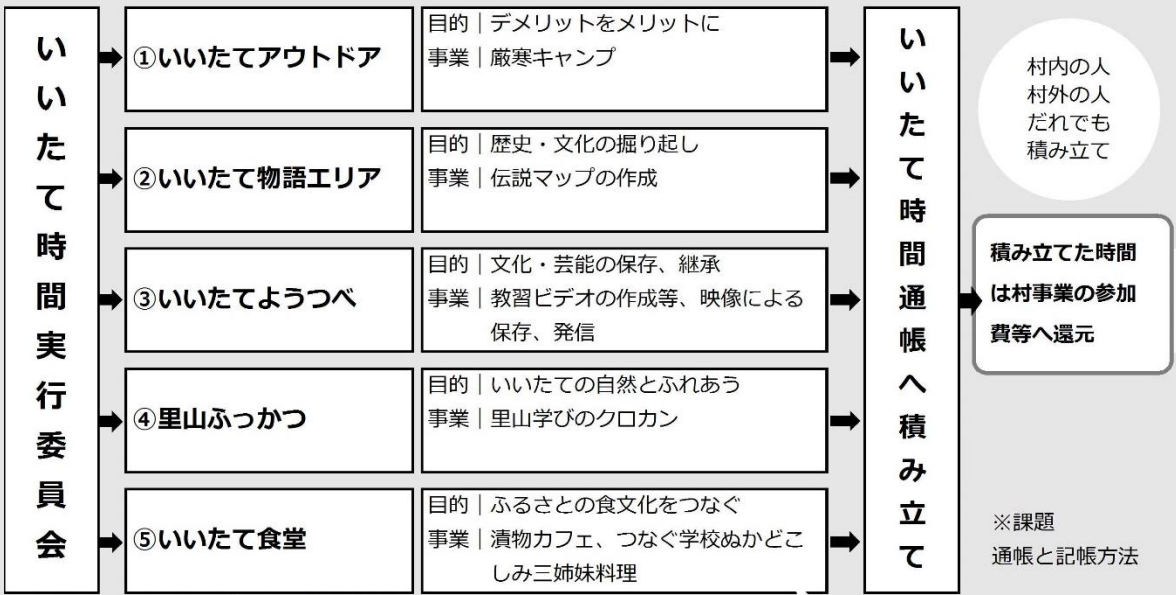
↑ どんな村？
持続可能な〇〇な村であってほしい

↑ なぜ必要か？
教育・文化分野の将来像：**ふるさとを 改めて 見つめ直す**

↓ そのためには？
どこにいても、**いいたて【と】 過ごす時間が大事**
↓ いいたて【と】 楽しく過ごすための仕掛けが必要

風の人（移住者）
土の人（地元の人）
水の人（外部支援者）
いいたては「通じ合いの媒体」となる

いいたて 時間プロジェクト



※実行委員会は5つのプロジェクトを総括する

<タイムスケジュール>

R1：しみ鍋料理の試食会

R2：実行委員会設立、準備期間

R3：プロジェクトスタート

<連携先>

①→産業・観光、防災

⑤→産業・観光、健康・福祉

全体→行政

子どもが学ぶ・大人も学ぶ

高齢者が教える

だれでも先生、だれもが生徒

MEMO1 PR ツール

- しみ三姉妹—いいたての郷土食
しみ大根、しみ豆腐、しみもち。
日本で一番地味なゆるキャラ
- 凍み沁み（しみじみ）鍋
しみ三姉妹に雪の下野菜を添えて
北の寒い気候だからこその特産品
を活かす

MEMO2 いいたて食堂

- 学校給食を高齢者へのサービス、
健康管理へ活かすことはできないか
- 給食を、子どもと高齢者、おとなが
一緒にとることはできないか
- 子どもが学校を卒業するまでに例え
ば漬物3種をつけられるようにする
など食文化の継承はできないか

解説 「死にがい」とは

願わくは、花の下にて春しなむ…等々
生き抜いた末に、どこでどのように死
ぬかは重要。住民にとって骨をうずめ
たいところ、帰るところ、安寧のふる
さとで「あり続けたい」。生きがいは個
人の次元、死にがいは1人では実現で
きず皆で協力してつくりあげるもの。

④ <防災・建設・行財政> 部会

<防災・建設・行財政>プロジェクト体系図

提案する村の将来像（キーワード）：



防災・建設・行財政の将来像（検討中・仮）：

**自助・共助で災害に強く
課題に立ち向かえる強靱ないいたてをつくります**

①地域で安全を考えよう！

～ハザードマップ作成、
行政区ワークショップ開催～

【目標値】

令和2年度から着手、
村のハザードマップ、防災計画、
地域防災マップを再来年までに作成

村役場：全体マップ作成、周知

村民：上記内容を確認、情報提供

学校：教育の一環として取り組み

行政区：ワークショップ開催
地域ごとのハザードマップ作成

【連携】・健康福祉部会（人の情報）
・教育部会（学校教育）

【収集情報例】

- ・土砂災害、水害
- ・強風、雷
- ・ため池など危険箇所
- ・通学路、学校の周り
- ・街灯がない、暗い
- ・避難困難者 等

②地域で移動を考えよう！

～デマンド、助け合い交通など～

【目標値】

令和2年度から着手、
5年後までにモデル実施

村役場：福祉部門と連携検討
村営デマンドタクシー実験運行

振興公社：他の収益事業（店舗運営など）と
組み合わせて実施

行政区：移動のニーズ把握、仕組み検討
実施意欲の高い地区から順次モデル
的に導入

【連携】
・健康福祉部会（介護送迎サービスなど）

【実施事例】（北上市）

有償ボランティアによる送迎



③地域同士で助け合おう！

～行政区の連携に向けた検討～

【目標値】

令和3年度から着手
段階的に実施、
5年後までに地区別計画策定

村役場：行政区への呼びかけ、支援
防災と合わせて、勉強会等を開催

行政区：困っていること、連携先等話し合い
総会などの既存の会議の機会を利用
自分ごと、重要と感じる議題設定
地区ごとに適任者を推薦

行政区・村役場：
5次総の「やるきつながりプラン」も踏まえ
ながら、地区別計画策定
地区別計画：各行政区の将来像、土地利用、
運営方針、連携内容等を示す。

【5次総やるきつながりプラン】

各地区も動き出し、新しい協定で
つながりを作ります。

